

# 労働法の基軸

## ——学者五十年の思惟

菅野和夫 著  
岩村正彦 = 荒木尚志 聞き手

2020年5月発売 / 396頁 / 本体 3800円 + 税  
四六判 / 上製



編集  
担当者  
から

労働法の体系書といえども『労働法(第12版)』(弘文堂, 2019年)。その著者、菅野和夫先生の労働法学者50年の軌跡を、岩村正彦先生、荒木尚志先生によるインタビュー形式で一冊におまとめたいただきました。先生の目を通してみる労働法の50年史でもあります。

長く労働法学を牽引されてきた先生のご経験は本当に幅広く、築いてこられたものの大きさも格別です。研究者、法曹、公務員、会社員……どの道を進むとしても、さまざまな示唆を得られるでしょうし、先生のご見識やお人柄からも響くものがあるはずです。先生をご存じの方はもちろんそうでない方も、“菅野『労働法』”で学ばれた方もそうでない方も、労働法の学習を進めている方もそうでない方も、どなたにも触れていただきたい。先人に学ぶ。このことをきっと実感していただけます。(三宅)

Index

I

お生まれから、学生生活、研究者生活、そして公職を退かれるまで。

### 第1章 ふるさとから東京へ

- 1 生い立ち / 2 わがふるさと二本松 / 3 大学時代

### 第2章 労働法学へ

- 1 労働法との出会い / 2 助手時代 / 3 留学 / 4 日本労働法学会、司法界との交流

### 第3章 菅野労働法学

- 1 『労働法』 / 2 『雇用社会の法』 / 3 研究者の立場と公益委員の立場

### 第4章 労働政策への関わり

- 1 労働時間法制 / 2 労働契約承継法 / 3 労働審判法 / 4 労働契約法 / 5 その他 / 6 労働政策への関与を振り返って

### 第5章 労働委員会での労使紛争処理

- 1 都労委での紛争解決実務 / 2 中労委公益委員の前期 / 3 中労委公益委員の後

期 / 4 労働委員会の今後の方向

### 第6章 国際人として

- 1 留学・講義 / 2 英文著作を通じた国際活動 / 3 国際学会

### 第7章 大学人として

- 1 東大法学部の研究教育体制 / 2 東大法学部長 / 3 明治大学法科大学院での教育

### 第8章 JILPTの調査研究に参加して

- 1 JILPTとは / 2 私にとってのJILPT五年間 / 3 国際的なプレゼンスの強化

### 第9章 研究者生活を通じて

- 1 研究者の育成・教育 / 2 講書始 / 3 Bob Hepple 賞の受賞 / 4 職業としての労働法研究者

### 終章 労働法五十年の変化をみつめて

※小社ウェブサイトの本書のページもご覧ください。

